

発行／公益財団法人よこはまユース

tel.045-662-3716 fax.045-662-7645

URL <https://yokohama-youth.jp/>Eメール soumu@yokohama-youth.jp

よこはまユースレター



活動先のひとつ「親子ふれあい会」でのプール遊び。
子どもたちの夏の思い出づくりをお手伝いしました

自粛
体験活動
短い学生生活

コロナ禍
緊急事態宣言

感染対策 さくらリビング

夏休みの経験 課外活動
仲間に会える

今しかできない経験を、中高生に

—さくらリビング「中高生夏期ボランティア」活動を終えて—

さくらリビング

ボランティア

活動制限

社会参加

直接体験

今しかできない

三密

出会い



■コロナ禍…「今しかできない経験を」

さくらリビングでは、中高生向けのボランティア活動として、「街角清掃ボランティア『マチピカ』」を毎月実施しているほか、例年夏休み期間中に多くの学生が参加できる機会として、「中高生夏期ボランティア」を実施しています。この事業は、こども食堂をはじめ横浜市内で展開されている施設や活動等に中高生が夏休みを利用し参加するもので、市内の多くの方々の協力を得て実施しています。

昨年の夏は東京オリンピックが開催される中、学生の課外活動自粛はまだ継続されている状況でした。私たちスタッフも、実施すべきか、実施する場合はどうかたちで行うのが良いのかを模索するところからはじまり、さまざまな人たちの意見を聞き考えました。結果、「中高生たちが「今しかできない経験」を、万全な対策をして提供していくことが、さくらリビングの役割ではないか」と考え、実施に向けて進めました。私たちと同じ想いを持って活動している方々のおかげで、コロナ対策を万全に行いながら、9か所の団体がこの事業にご協力いただけることになりました。

■緊急事態宣言下でのボランティア体験活動

活動先は9か所・75人分用意をしましたが、課外活動の再開を待っていたのか、複数応募する学生も多く、早い段階で49人の参加が確定し、7月からオリエンテーションを開始しました。コロナ禍でボランティアを募集する団体も昨年に引き続き少なかったため、多くの体験先を中高生たちに紹介できたことは良かったと改めて感じました。

そんな中、オリエンテーション開始後に再び緊急事態宣言が発令され、体験先も2か所が中止となりました。しかし、オリエンテーションで中高生たちの目標や意欲を目の当たりにしていたため、ここで中止するわけにはいきません。中止となった体験先に活動予定の中高生も、無

事に他の体験先に受け入れていただくことができ、私たちも新たな感染対策を加えたうえで、実施に向けて再度動き出しました。



桜木町駅前の「どこいき隊」。夏休みに横浜を訪れた人たちにまち案内をしました

■中高生の成長を直に感じて

体験先の配慮により、コロナ禍にありながらも48人の中高生が、延べ97回の活動を行うことができました。活動を振り返るミーティングは密にならないよう3回に分け、アクリル板を挟みながら感想を共有しました。“今しかできない経験”を無事に終えた中高生たちは、緊張していたオリエンテーション時とは表情も変わり、明るい笑顔で達成感にあふれた様子でした。また、終了後に自主的に片づけをしてくれる姿はオリエンテーション時にはなかったことで、短い期間での成長を感じました。

参加した中高生たちからは、『自分の考え方が変わった』『多くの方々の支えを身をもって感じた』『誰かを笑



アクリル板をはさみながら実施した「ふりかえり会」

顔にする仕事ができたらいいな』等の素晴らしい感想を聞くことができ、私たちスタッフも「チャレンジして良かった！」とつくづく感じています。

■本事業の問合せ■

さくらリビング TEL263-8020



報告

第60回 爆笑！濱っ子寄席

(2021年11月19日実施)

コロナ禍で昨年は実施できなかった記念すべき60回。この事業も「できるか？やるとしたらどうやって？」を繰り返しながら、多くの方々に協力いただき実施することができました。

出演者や関係者の皆さん、そして再開を待っていてくれたお客様のおかげでチケットも完売し、楽しい時間となりました。

(関内ホール大ホールにて)

◎当日募金額：96,978円

ご協力ありがとうございました！



活動レポート

横浜市野島青少年研修センター

自分で火おこし、ご飯炊き『のじまチャレンジ教室』

(2021年11月23日)

「青少年が新しいことにチャレンジするきっかけづくり」をテーマに、さまざまな体験活動を提供する「のじまチャレンジ教室」。今回は飲料缶を使ったかまどづくりと火の扱い方を学び、ひとり分のご飯を炊く方法に挑戦しました。



家ではスイッチひとつでご飯が炊けますが、火を繰り返しながらの炊飯は初めての子も多く、「消えちゃった!」「熱くてマキが継ぎ足せない!」などハードルもたくさん。リーダーのお兄さん・お姉さんたちの力を借りながら、みんな一生懸命に火と向き合っていました。できあがったご飯は努力の甲斐もあって、それぞれ思い出の味になったようです。

よこはまユース（本部事業）

『道志小児童よこはま体験プログラム』(2021年11月5日)

横浜の水源、山梨県道志村の5年生児童を毎年招待しています。昨年はコロナのため中止となりましたが、今年は5・6年生と一緒に招待することができました。

午前中は野島青少年研修センターで日産自動車の出張授業「わくわくエコスクール」を受講。電気自動車の自動運転技術を見学し、ハンドルに触れずに車庫入れする様子に驚きました。お昼は野島町内会の協力で、穴子の天ぷらやわかめの味噌汁、アサリの炊き込みご飯など地元食材をおいしくいただきました。午後は日産自動車追浜工場に移動し、電気自動車の製造ラインや埠頭を見学しました。児童からは「最近交流ができなかったのよ機会になった」といった感想がありました。



横浜市青少年育成センター

「自然・遊び講座」(2021年10月31日)

昨年度から、身近な公園や里山を活用して青少年の自然遊びを推進する講座を実施しています。



今回は、新治里山公園（緑区）の緑豊かなコースを辿りながら、様々な自然遊びのプログラムを子ども目線になり体験する講座を実施しました。参加者からは「体系的に学べたので初心者としても理解しやすい内容で良かった」、「ゲーム感覚で楽しめました」などの感想がありました。コロナ禍でリアルな体験を実施することが難しい状況ではありますが、子どもたちを近くの公園や里山に連れ出して、身近な自然に触れ合う機会を作っていただきたいと思います。

放課後キッズクラブ

『保護者会を実施しました』

(宮谷小キッズ/2021年11月25日)

「キッズではどんな様子ですか?」「キッズのおやつはどんなものが出ているのでしょうか」。

児童の遊びや生活の様子を保護者と共有し、協力関係づくりに向けて実施した保護者会。近隣のパン屋さんにご協力いただき、実際に児童に提供しているおやつのお総菜パンを試食として配りました。他にも、キッズ内で流行っていることや、感染症対策の取り組みなどを伝えました。

感染症対策とはいえ、子どもたちに窮屈な思いをさせてしまっていることに心苦しくなる毎日ですが、少しでも楽しい時間を過ごせるように、イベントを徐々に再開したり、少人数でのボードゲームなどの遊びを増やしたりしています。



Thank you for your support.

ありがとうございました!

寄附金協力者（順不同、敬称略）

【団体】

(有)横浜ランパート協会/NPO 法人横浜音楽協会/第一カーボン株式会社/三ツ境幼稚園/馬車道商店街協同組合/横浜信用金庫/京浜サービス(株)/柴町内会/ブックオフオンライン/横浜市健民少年団/特定非営利活動法人ともに浜をつくる会/(有)武牛乳店

【個人】

久保田令子/田邊義勝/池田加津男/鈴木千代江/清水桂子/雲井耀一/橋本康正/荒井清/中村輝次/荒井総平/古澤竜夫/荒巻喜代子/荒巻芳幸/松本小寿恵/下野坊和子/川口俊行/片岡畔/若木一美/石間千賀子/岳野万里夫/山本ケサノ/和知典夫/椎野雅子/須藤健三/武久美子/山本亜紀子/関野修一/宮谷敦子/光田清隆/安田幸世

2021年8月1日から11月30日までの寄附金

◆ユース賛助会費	54件	314,000円
◆一般寄附金	9件	115,036円

関東と関西で呼び方の違うものがある。おしることぜんざいもその一つ。関西ではこしあんのものをおしること、粒あんのものをぜんざいと呼ぶが、関東ではこしあんのものは御前しること、粒あんのものは田舎しること呼び、汁気のないあんを添えたものをぜんざいと呼ぶそう。ちなみに私は御前しこ派です。(まっきー)